

知多半島ケーブルネットワークコミュニティ誌 [ココナッツクラブ]

COCONUTS CLUB

December 12
2020

武豊大足歴史散策指南



歴史散策

武豊大足

指南



大足は武豊中心地区のうち南部のエリア。
物販・飲食施設「味の蔵たけとよ」があり、味噌蔵の
集まる町、といえはおわかりいただけるだろうか。
味噌の香りを楽しみながら大足の歴史を訪ねる散歩
に出かけてみよう。

交流センターも見どころだ

武豊町というと味噌・たまりをイメージする読者も多いことだろう。その中心地がここ大足である。住宅が密集する町の中に大小の蔵が建ち並ぶ独特の景観が見られ、行政や観光協会も「蔵のまち並み」「みそ蔵の小径」などと銘打って、武豊名所の筆頭格の扱いで推している。また、国鉄武豊線旧武豊港駅跡に残る「直角二線式転車台」も、全国で現存するのはこれだけという珍しいもので、名所のひとつに必ずピックアップされる。

明治時代、大足には大型船が接岸する国際貿易港「武豊港」が整備され、武豊線もここまで敷設された。いわば大足は、海路と陸路が結節する知多半島屈指の「物流ターミナル」だった。最盛期には旧武豊町と旧富貴村だけで五十軒もの蔵元があったというが、味噌の蔵元が多いのは、かつての武豊港が輸入された大豆と塩の陸揚げ地であり、製品も武豊線で輸送できるといって大足ならではの地の利の名残りである。そして転車台は、陸路の貨物輸送の主役が鉄道だった頃の名残りだ。

大足散策は、かつての武豊線の起点、武豊港駅にあった転車台からスタートしたい。と、その前に、すぐそばに建つ蔵のようなデザインの「武豊町地域交流センター」を覗いて行こう。観光客が立ち寄りそうにない公共施設だが、実はここ



大足散策地図

は必見のスポット。というのは、館内に武豊の歴史と産業を紹介するミニミュージアムがあるのだ。展示の主役は味噌・たまり。その歴史と現在を頭に入れておけば、より深く散策が楽しめる。

ここでは旧武豊駅の精巧なジオラマも見逃せない（P.03の写真）。転車台が駅構内のどの位置にあり、どのように使われていたのか、これを見れば一目瞭然である。簡単に説明すると、明治19年

(1886)の武豊線開通当初、線路は武豊駅の構内に入ったところで曲線半径65メートルという急カーブになっていた。だが、やがて貨車が大型化するとこの急カーブを曲がり切れなくなる。それを解消するため昭和2年(1927)に転車台が設けられ、ジオラマの人形がやっていたように、貨車を一両ずつ乗せて手で押して九〇度回転させていたわけだ。

旧家跡地の記念碑と「コンビニ

今回の大足散策では、武豊町観光ガイドボランティア協会の皆さんと一緒に歩いていただいた。ガイド協会は平成23年(2011)、武豊町に初めて観光協会が発足したのを機に結成され、現在は会員19名で活動している。長尾の武雄神社周辺や富貴・東大高の童宮伝説の地など、要望があれば武豊町内ならどこでも

案内してくれるが、やはり大足をガイドする機会が多いとか。会長を務めるのは、生まれも育ちも大足という石黒幸男さん。地元への愛着は人一倍強く、地元の面白い話が聞けそう。

交流センターと転車台ポケットパークを見たあと最初に案内してくれたのが、国道の向かい側にある「ローソンの蔵たけとよ前店」。その駐車場の隅に、昭和13年(1938)に建立された「明治天



7 ローソンの蔵たけとよ前店



1 豊石神社



8 明治天皇武豊御小休所碑



2 堀田稲荷神社



9 泉万醸造



3 徳正寺



10 伊藤商店
9:00~15:00、土・日・祝日休



4 転車台ポケットパーク



11 南蔵商店
9:00~17:00、土・日・祝日休



5 武豊町地域交流センター
9:00~17:00、月曜休(祝日の場合は翌平日)



12 カクトウ醸造
9:00~18:00、日曜・祝日休



6 味の蔵たけとよ
9:00~18:00、月曜休(祝日の場合は翌平日)

■武豊町観光ガイド
ボランティア協会の案内は一週間ほど前までに事前予約が必要です
問い合わせ・申し込みは、
武豊町観光協会
(武豊町地域交流センター内)
TEL 0569-73-1100



15 蛇車の鞘蔵



14 火の見櫓



13 丸又商店
8:00~17:00、土・日・祝日休

皇武豊御小休所」の碑が建っている。これは明治23年(1890)にこの地域一帯で実施された「陸海軍大演習」のために来県した明治天皇が、この場所にあった^{おんまゝ} 粗山與兵衛の屋敷で休憩したことを示すもの。粗山與兵衛は、原田屋の屋号で味噌・たまりの醸造業を営んでいた大足の有力者である。

建物の一部は数年前まで残っていたのだが、老朽化した建物を維持・修復するのは困難で、やむなく取り壊したという。石碑はもとこの場所に建立されたもので、交流センターが整備された際、その敷地内に一時移設される。そしてローソンのオープンに伴い、再び元の場所に戻された。

石黒さんは「ローソンの店内も見てください」と取材班を誘導する。散策ガイドがコンビニを案内する？一瞬不思議に思ったが、中に入ると驚いた。なんとここには、武豊港駅が営業していた頃の写真をはじめ、武豊町内で撮影された昔の貴重な写真が十数点、大きく引き伸ばされて展示されているのだ。粗山與兵衛の子孫にあたるオーナーが「大足の歴史を広く知ってもらおう助けになれば」と展示したとのことである。

大足と野間の意外な繋がり

ローソンを出て、その脇に通じる細い道を入っていくと、大正8年(1919)

が、若くして死ぬことになった先祖の長田忠致に重ね合わせて建立したというのである。

歴史書に載らないような地域の歴史小話は、やはり地元のことをよく知る人からでないかと聞くことはできない。

細道を抜けて蔵から蔵へ

徳正寺の南の家並みの中には、蔵元の伊藤商店と南蔵商店がある。車一台がかるうして通れるような狭い道に入り込み、伊藤商店へ。ここでは蔵の中を見せてもらった。薄暗くひんやりとした空間に年季の入った仕込桶がずらりと並んでおり、きりりとした味噌作り現場の空気に思わず背筋が伸びる。

伊藤商店の創業は文政年間(1818~1830)で、現当主で九代目。創業時から五代目までは造り酒屋だったという。「伊藤商店の商品には、^{まね}傳右衛門の名を付けているけれど、近所の人はなぜか「でんべん」と呼ぶんですよ」と、店先で語らう先代当主と石黒さんが笑いながら教えてくれる。地元だけで通じる隠語や通称を知ると、その町の深部に一歩踏み込めたようだなんだか嬉しくなる。

伊藤商店から奥へ進むと、道はますます狭くなる。大足にはこのような細い道が入り組んでおり、地図を見ずに歩くと迷路をさまよっている気分だ。その細道



味噌の香りがほのかにただよう、迷路の町を彷徨いて。



創業の蔵元「カクトウ醸造」がある。蔵の前で石黒さんは「まだ商店が少なかった頃は、カクトウのお婆さんが単車の荷台にたまりを積んで、家庭に配達していましたね」と教えてくれた。サザエさんに出てくる三河屋のサブちゃんのような御用聞きだろう。古い建物が点在する大足の町は、配達中のカクトウのお婆さんに今でもばったり出会いそうな雰囲気がある。

次に立ち寄ったのは徳正寺。知多四国霊場の第二十四番札所として知られている古刹だ。ガイドの説明が実に興味深い。寺の歴史は戦国時代の永正10年(1513)、野間(美浜町)からやって来た徳正道慶居士という人がこの地に開いた地蔵堂が始まりと伝わるが、この人は源義朝を討った長田忠致の末裔というのだ。長田父子の義朝討ちの話は昨年、野間大坊のご住職の語りをじっくり聞いたが(2019年8月号)「野間大坊いまむかし」参照)、その続きを大足で聞くとは思わなかった。「そんなことから、大足には、^{まね}長の字を変えた永田姓が多いといわれているんですよ」と石黒さん。

境内には、大足の海で死んだ亀を祀る墓もある。武豊で亀というと竜宮伝説が思い浮かぶが、これはその伝説とは関係がなく、大足らしいエピソードがある。ここに葬られたのは、武豊港に入港してきた大型船のスクリューに巻き込まれた若い亀。それを哀れに思った当時の住職

を抜けた先にあるのが、明治5年(1872)創業の南蔵商店。道の両側に黒壁の蔵が並び、開いた扉や窓から中の様子が伺えるのが楽しい。敷地の隅に仕込桶の上に載せる重石が積まれているのも蔵の町らしい風景だ。

ここで足向きを変えて北に進もう。徳正寺の西側を通り過ぎ、武豊港駅への線路跡を利用した道路に出る。「ちょうどここに陸橋があったんですよ」と石黒さん。今は緩い坂道になっているが、線路のあった時代は掘割になっており、それを跨ぐための陸橋が架けられていたという。すぐ先には、文政12年(1829)創業の丸又商店がある。現存する蔵で最初に味噌・たまり作りを始めたのがここである。

二つの神社を参拝すれば

大足の北部には、国道247号を挟んで堀田稲荷神社と豊石神社が並んでいる。先に堀田稲荷神社を参拝する。目印は境内入口で参拝客を出迎える一対の大きな狐像。一の鳥居や拝殿の柱は本家の伏見稲荷のように朱色に塗られている。

神社の創建年は定かではないが、一説には戦国時代の天文5年(1536)頃に鎮座したという。石黒さんによれば、豊川稲荷を除けば愛知県内でも最大規模の稲荷社とされ、参拝者もかなり多

Q. あなたの今年一番うれしかった出来事とその理由について教えてください。

お誕生日に孫が似顔絵をかい
てお祝いしてくれたこと。
(50代・女性)

自分は誕生日に甥っ子に手形アートの
プレゼントをもらいました。世界に一つ
だけのものなので嬉しいです。
(築山)

ココナッツクラブ9月号巻頭特集で
「美かん君」(美浜町図書館マス
コットキャラクター)が掲載された
こと。製作者本人なので、がんばっ
て作ったごほうびをいただいたよ
うな気持ちです。(50代・女性)

ありがとうございます!これからも地域の
皆様に喜ばれるようにしていきます。
(百合草)

映画館が再開したこと。大きなス
クリーンで見たかったから。
(40代・女性)

映画はやっぱり迫力ある大画面が良い
ですね!!コロナ禍で映画館に行けな
い時期もありましたが、今後も新しい生
活様式を守って映画を楽しんでいき
たいですね。(藤本)

母が元気で米寿を迎えたこと。
(60代・男性)

おめでとうございます。お母さまをいつ
までも大切にしてくださいね。
(百合草)

泣きたい私は猫をかぶるの放映。
地域の風景。
(60代・男性)

「あっ、あの場所!!」とツッコミがとまりま
せんでした。改めて常滑の良さを気づ
かせてくれる映画でした。(築山)

高校時代の友達と10年ぶりの再
会をした事。
(70代・女性)

友達と再会ってとっても嬉しいですよ
ね。私も最近コロナ禍のためほとんど会
えていないので、久しぶりに皆と集まり
たいなあと思いました。(藤本)

CCNCからのお返事は、私たちが担当しました! 街ネタの質問「あなたの今年一番うれしかった出来事とその理由。」



藤本 江美

仕事上では、今年もドキュメンタ
リー番組「けーぶるにっぽん」の
企画が通り、制作を始めたこと
です。放送は2月なので、そのと
きには皆さん、ぜひ見てくださ
いね~!!



築山 一誠

素敵な猫グッズを頂いたこと。い
つもバタバタとすることが多く、
余裕がない時でも、ふと猫グッズ
を見るだけで癒されるんですよ
ね。こんなん、なんぼあってもい
いですからね。



百合草 俊夫

篠島・日間賀島にケーブルテレビ
を導入したことで、たくさんの人
に応援されました。加入を進める
のに会社の同僚や島の人たちにも
協力してもらえたので、うれし
かったです。

「データ放送」で
もっと暮らしを豊かに!!

もっと暮らしに役立つ情報をお伝えするため、
11月にデータ放送がリニューアルしました。
従来放送してきた行政・お悔やみ情報に加え、
気象情報(警報・注意報を含む)や
避難所開設情報などもご覧いただけます。
みなさんの暮らしの中で、ぜひご活用ください!!



NEW
天気予報だけでなく、紫外線
や花粉情報もお届け!



NEW
台風時の避難
勧告・指示情
報や特別警戒情報の他、エリア内の
避難所情報もご覧いただけます。

データ放送の使い方



※画面はイメージです

地デジ11ch、12chを視聴中に、
リモコンの[d](データ放送ボタン)
を押すだけ!
行政やお悔やみなど知りたい情報
を表示するには、上下矢印ボタン
で選択→[決定]を押します。

かつたらしい。また、境内では二七の付
く日に朝市が立ち、開催日には多くの
買い物客が訪れる。朝市に合わせて散策
するのも手だ。
ここでは二種類の常夜燈が目を引き
た。手水舎の横にある大きな常夜燈は、
神社から浜辺まで近かった時代、衣浦
湾を航行する船が灯台がわりにしてい
たものとか。そして、一の鳥居と二の鳥
居の間にある一対の常夜燈は大正八年
(1919)の建立で、寄進者は青木彌
六、台座には「サクラ味噌本家」なる文
字が刻まれている。これは戦前まで存在
した町内最大の蔵元で、徳正寺の西で
見かけた大きな煉瓦煙突の遺構が、蔵
の名残りとのこと。ちなみに南蔵商店の
創業者の本家は
サクラ味噌で、独
立してその南側に
蔵を構えたので
「南蔵」を名乗っ
ただという。
続いて、横断歩
道を渡り松の古
木に包まれた豊
石神社へ。明治11



年(1878)、武雄神社を氏神とする
長尾村と、豊石神社を氏神とする大足
村の二村が合併した際、各氏神から一文
字ずつ取って「武豊」という村名を創出
した話はよく知られている。また、毎年
七月に行われる豊石神社の祭礼「蛇車
まつり」も有名で、山車の上の龍が口か
ら火を吐くかのような「蛇ノ口花火」
は、山車祭りの本場である知多半島で
も類がない。
境内には、神社ではあまり見ること
ないレンガ造りの倉庫が建っている。これ
は、蛇車まつりの花火に使う火薬を保
管しておくための倉庫だったという。
「私の若い頃は、火薬に鉄工所でもらっ
た鉄粉を自分で混ぜ合わせて、花火用
の黒色火薬を作っていたんです」と石黒
さんは振り返る。
ぐるり大足を巡って約1時間半後、ス
タート地点の交流センターに戻ってきた。
実はまだまだたくさんのお話を石黒さん
はじめガイドの皆さんから聞いたのだが、
紹介する紙幅がないのでまたの機会に披
露したい。すぐにでも知りたいという方
は、ガイドボランティアを予約して、ぜひ
話を聞きながら大足を歩いてほしい。

勝手知ったる地元の町も、歩くたびに発見がある。



(取材協力) 武豊町観光ガイドボランティア協会(石黒幸男さん、濱嶋憲一さん、竹内裕美さん、馬場日出子さん、永田幹子さん、久澄嘉孝さん、原田秀敏さん、井出満枝さん) /
武豊町商工会 / カウトウ醸造 / 伊藤商店 / 南蔵商店 / 丸又商店 / ローソン味の蔵たけとよ前店
(参考文献) 武豊町誌 本文編 / 決定版地図ガイド 知多四国巡礼(歴史社)